週刊 磐城之實業

毎週日曜日發行

發行兼編輯印刷人 大和田與[illegible]
發行所 磐城之實業社
定價 一部金五錢郵税共 半年分一圓廿錢
廣告料 一行五十錢 但指定增十錢
印刷所 大和田印刷所

夏

夏と生活

▲如何にして三伏の夏を送らんか。▲旅行乎、避暑乎、温泉乎、白浪寄する濱邊、淸水流るゝ柳かげ。誰か一顧の値なしとせんや、而も我は綺羅肱服の貴族的淫逸を知る者に非ず、悠々自適、一笠一杖の旅行を學ばんとして能はざる者。▲あつさをしのぐ澁團扇▲この精神的避暑の裡亦無限の趣味なしとせんや

精神的避暑

▲靑松一帶、白砂十里遠く眞帆片帆を眺めて、高樓の欄杆に佇む美人あり晩涼折々袖を返してもつれ毛動く歡樂乎、悲哀乎知る者は語らず、いふ者は知らず。▲願くば去つて貴族的避暑の半面を見よ、而して村娘の澁團扇、漁扇の安酒と比せよ。▲無限の詩味は去つて澁團扇にあり、安酒にあり▲人罵倒して曰く。つかわれて骨を折るとも腹立つなうちはと云へば他人ではなし。▲瓢輕たるこの詩、精神的避暑を敎へて餘り無しとせんや。

夏の生命

▲夏の生命は淸新なる靑菜也。涼しさや朝草門に荷ひ込む。若菜山國にめでたき一つ哉。水の香もあるや廣野の靑嵐。▲夏の生命は爽快なる夕立也。夕立や早隅々は元の空。▲夏の生命は曉にもあり、夕にもあり、木陰にもあり、而して涼しきものは淸潔なり、純美なり。うち水や松にかゝれば松の露。▲形なき聲に於ても涼しきものあり、淸泉點滴の聲は如何、風鈴の響は如何。何驛路の鈴は如何。涼風や海邊の道に駒の鈴▲鳴呼、涼しきもの皆、三伏の苦熱を慰する生命なり、而も人事を籠めたるものは如何。涼しさやよき碁に勝て肱枕。▲緑陰淸風の下、趣味を戰はして而して憂を忘る亦風流の極みなるかな。夕べ若菜見にゆくかな。

夏痩と美人

お前おもふてこのやうにやせたふたへまはりが三重まはる。▲鴛鴦獨り眠らず、愛の一致情の結合、誰か人世の極美ならずと云ふ而も不過の戀に於ては如何。但見淚痕濕　不知心怨誰▲初戀か、怨情か、思ふ人のみまかりけるを。夏痩と答へてあとは淚哉▲鐵腸石心、堅き者はもろし、丈夫却つて淚鮮しとなさんや。是れを某君に問ふ。

夏の秘密

▲夏の景物中、[illegible]人情の秘密を語る者は夫れ蚊帳か。▲睦まじき家庭の趣味も此の裡にあらん。▲悲むべき人世の不過も此の裡にあらん。▲蚊帳一重、去つて而して秘密を暴露せんか。▲愛の宮廷には道理を許さず、愛の國家には法律なし、解けて語りし睦言の溢るゝまでの趣味は如何。▲飛花落葉、時來らず風無きに人世は多く悲觀を歌はしむ、蚊帳また多恨の詩題たらざらんや。▲夫を喪ひたる詩人、千代女の蚊帳に對せる聯想は如何。起きて見つ寢て見つ蚊帳の廣さ哉。▲妻を喪ひし俳人、麥泉の感慨は如何。面影の蚊帳にてすかす夕涼み。▲結婚は迷ひの死なり、戀の結論なり墳墓なり。▲知らず、夫を喪ひし千代女、妻を偲びし麥泉如何に戀の昔を繰返したるぞ。

紙上講演

借金支拂延期

果して妥當を欠くや　敢て一言を辯ず

一

借金あるが故の講演にはあらず世想の一端として此の深刻なる不景氣に斯く考へて居る者もあることならんご察知しての筆を採りしまでゝある。諸君、政府は收入豫算の辻褄を合せんが爲めに支出の切り詰めを考へた揭句、海軍費の內一千二百萬圓の支拂延期の形式で節約を强行すると云ふことである、買つた品物の拂を●延期すると云ふ事も時に●依つては●必要●であると政府が考へて居るならば無産階級の貧棒人の借金返濟を延期するモラトリアムの實施を要求することも妥當ではあるまいかブルとプロとの考へは斯く相違がある事に一考して貰いたい。

二

舊平價に依る金解禁は著しく貨幣價値の騰貴を來したもので此の一ヶ年間に物價は平均二割近く下落しそれだけ貨幣價値が增してゐる譯である、從つて一ヶ年前の借金を今日支拂ふとい ふ事は既に二割余分に支拂ふことになる、だから實質的に借金は二割天引しても▲一▲向▲差▲支▲な▲い▲筈▲で▲あ▲る▲と▲借▲金で有明なる平町議の某君などは盛んに說明してゐるのである。

三

而も今日の社會情勢を見れば暗憺として全く前途の豫想が出來ない程である、失業は日毎に增加する一方で失業保險の如きも制定されてゐないから益々深刻化するであらう、失業者二百萬近くも出したと云ふ彼の英國の如きは失業保險に依つて十五才以上の男女勞働者は給與金を受けて居るとの話である、即ち廿一才の妻帶者は一日一圓二十一錢妻に對しては一日六十錢合計一圓八十五錢を支給されて居ると外電は報じてゐる。

四

我國の勞働者には解雇手當があることになつては居るが然しこれとても其額に於て半永久的失業に備へ得るものではなく、ほんの申譯的で而も中小工場に於ては此の支拂ひさへも困難な實情に陷りつゝあるのではなからうか、其上[illegible]此の手當金が借金の方へ大部分取られてしまふ樣では何の役にも立たぬのである、これは敢て勞働者のみではない殊に慘憺たるは農村の昨今である、大字一部落に於て全戶數の九割迄は借金の所有者であらう、自小作農家の借金は實に驚くばかりである、彼等は何故に借金をせねばならぬか營々として働きつゝ尙その收入を以て其の家族を養ひ得る程の收支が相償はぬからである。ましてや不慮の災害一度彼等を見舞ふならば永久に借金地獄に陷落するを免れ得ないのは當然である。

五

勞働階級、農民階級は今や末曾有の苦難に呻吟して居る、減給は云ふに及ばず解雇、半永久的失業？繭の底知れずの値下り、失業者の歸農？この生活苦は、實に／＼忍びざるの慘情ではあるまいか、政府でさい買つた物品の代金支拂延期を認むるとしたならば此の人間の生命に關する生活苦を緩和する上に於て世間一般の借金の返濟延期位何事やある、よろしく五ヶ年延期其間無利子の大英斷を行ふべきである。普通ならば室町時代の貸借無勘定の德政でも布いて貰はねば貧棒人が助からぬ程の重大時期である、金持ばかり二割近くも遊ばせつゝもうけさせる勘定では世想の前途が思はれる、●私●設●モ●ラ●ト●リ●ア●ム●は理論にあいませんが此處まで勇敢にプロ連の爲めに氣を吐いて今日の紙上講演を終ります、若し之れが實行出來得たとすれば公安に關係ありましよか。

民衆黨磐城支部の活動

社會民衆黨磐城支部では左の七ヶ條を各炭礦及工場に發送して回答を求め若し無責任なる場合乃至資本家本位の産業合理化にのみ邁進し毫も勞働者の生活戰線に對し冷酷無責任なる時は斷然鬪爭を開始するとのことなるが果して昨今の財界情勢にて實現さるゝやは興味ある問題と云ふべし。

一、馘首人員數
二、馘首人員職場別
三、馘首せし原因
四、馘首せられし人員の從來の成積及今後の影響
五、馘首者に對する退職手當の實狀詳細
六、今後の馘首方針
七、現會社の經濟狀態

青眼白眼

平魚市場の紛[illegible]事件は會社側の重役總辭職と其他二三件の解決を見て反會社側の勝利の樣にも見えたが去十五日總會で從前通り重役の再選で見事會社側の大勝を見るに至つた、これでは石城郡鮮魚商組合と反旗を常々と押立て一時的なりとも活躍を見せた手前頗る世間に對し面目次第もない譯だが由來會社なるものは兎角利益だから從來の反會社連に騷ぎを演じてはお互の不[illegible]も我慢か出來るならば平穩に濟ませることが得策であらう◆石城政友倶樂部の建築寄附金募集は一氣加勢にやらなくてはいけない連續的活動してこそ人氣も加はるものを二日していゝ三日休むと云ふ風では色々と噂が出るもので豫算よりは寄附者の額面は必ず少くなるの小田吉治氏の二十圓也が果して信なりとせば此の間の消息を雄辯に物語るものではあるまいか最も小田氏を政友に好意を持つものと見るのが最初から間違つて居たかも知れない其れ政友連大いに奮闘せよ◇平町政審議會で味噌を付けた連中は名譽回復のため何かな面目の立つ問題を見付けて物にしようと暗々裡に活動して居るとの噂もあるが事更に事を造るのはよろしいことではないから、死せる過去をして其の過去を葬るべきであるそんなに苦にすべきてない。

清楚な　サロン
明るい　サロン
洋酒は　サロン
高級食堂　サロン　田町通り　電三五二
食事は　サロン
奉仕は　サロン
僕等の　サロン
サロンの公休日は毎月第三火曜日に變更いたしました

磐城之實業お筆先

□『尾花は露さ寢たいといふ露は尾花と寢ぬといふあれ寢だといふ寢ぬといふ』是れ粹を謳へし俗謠也、石城民政倶樂部の、野崎對萩原兩派の爭點はマアこんなものであるぞよ。

□例の不實登記で純潔分子と從來誇つて居つた連中の名分論も完全に是れが爲めに陰影を投せられたる憾みたとせざる能はずであらうが蒔いた種はしかたがないぞよ。

□一体萩原は理智の人で政治家としての必要條件たる豪膽の勇氣に欠ける處があり日頃に子分を養成して置くの考へが野崎とは反比例を見せて居る處があるごうしても進退動靜衆心一致せぬ處が多々あるのであるぞよ少しく思ひを廻らせよ。

□そこで倶樂部の登記事件だが是れは何とか自發的に解決して男兒の意氣を示して過ちは過りとし立派に善後處置を取つてこそ君達等の名譽ばとりかへす事か出來るものであるぞよ是れは一日も早く急を要するものであるぞよ。

□つまらぬ瘦我慢などだしてやれ名分だの体面だのと蝸牛角上の爭ひをして四の五のと文句を云へ居る場合ではないぞよ。

□今度の騷ぎて野崎が今迄のやうに直ちに告附沙汰なとをすれば反つて正者が不德呼はりをされて男振りを上げることは出來なかつたのであるぞよ君なとは腕の人であるのだから德を涵木ッ葉天狗みだいな事は夢にも今後に於てはするのではないぞよ。

□神は一視同仁なれはお前達は皆我子であるぞよ、さればお互への感情ば水に流して何とか握手をする量見を出さないではいけないぞよ、幸ひ政友は人が無いから剩せられないのだから今の中に考へることであるぞよ。

將來を囑目さる　酒井清氏

平ステイション側に堂々たる旅館あるは平町を知る旅人と共に直ちに第一流の住吉屋支店を聯想するであらう、此家の主人公の酒井清氏は實に將來を囑目される青年紳士である。

一時紛擾から解散までした旅館組合を新たに創始して之が組合長となり旅行人の慰安所たり休息所たるの職能を發揮すべき幾多の設備や衛生上の注意や待遇方法等を研究し改善して立派たる旅館は磐城の平にこれを發見することが出來ると世評を高めんと組合に對し努力して居るのである。

磐中第十二回の卒業、直ちに上京して早稻田に成は明治に聽講生となつて鈴木文治や永井柳太郎さては拓相の松田源治等と交遊し政治を論し勞働や思想問題を研究したのが今後に於ける氏の人物觀を大ならしむる因を造つたことであらう、然も極めて謙讓にして圓滿無碍の天性は能く衆智を容れ政實兩界に亘つて刮目に値するの活躍時機も決して遠くはあるまい。

消防小頭として信望厚く常に消防の向上と發展に邁進し居るの勇氣は推賞に値ひするものがある、相等年配には必ず組頭として縱横の手腕を見せることであらう。

光風霽月の心事は何となく親しみがある。

×　×　×

資源とする平居場價値

舊水道、學校、新水道等を加へた町債六十萬内外を有する平町の財政に資源を造るべく東部議員の建議案たる株式會社平居場の公營買收問題は齋藤敏、武田元之助、荒川淺次郎、根本品藏、千葉彦治の諸氏調査委員となつて此程調査完了を見たが該居場の過去五ヶ年間の一ヶ年平均數量は牛百五十六頭馬四百十九頭豚千三百十一頭是れが居場使用料三圓二圓二十錢一圓が規定で合計二千六百九十八圓附加税は平均二千三百八十八圓を算いて町收入となつて居つたのであるが昨四年度から從來税率に改正を加へ各一頭の率は牛一圓三十四錢馬一圓豚四十錢となつたが居場の使用料金には變化が無いから年二者で三千八百五十圓内外が推定收入である支出の方面では留守番及書記給料年二百五十圓其他租税雜費を加算して總額三百六七十圓である創業全費用は二萬圓の株金全額拂込濟の上に五千七百余圓日歩四錢の高利子を計算して負債全部を昨年迄に償還して七分の配當をなすの利益ある會社となつたのであるが此居場は交通至便ならざると手續等に復雜化しあるが故に石城郡南方面の居落は高萩居場を利用が多い樣樣である、買收の曉は是等の欠陷に改善を加へ状況の挽回を小名濱商港の完成等を現出したる時こそは多量の增加を見るべく二萬圓買收も現在數に於て三千圓前後の利潤を計上出來得一 である から其時に於は大なる町の資源となることであらう但し買收費を起債によるさすれば其筋の認可に暗礁あるべく他に一と工夫せねばなるまい。

少壯實業家　吉田喜代治氏

◎東都に於て有名なる新聞販賣業關東北の第一人者其盛名を謳はれ居る平陽舍主吉田禮次郎氏の女婿として平町に居住し常磐線一帶の監督の任に當り居る吉田喜代治氏は腦頭明快頗る商機に富み又甚た博識多才の人である。

◎豐間村の產。本縣師範學校に學び教鞭をとり生涯を教育家として奉仕せんとしを禮次郎氏に見出され一轉して實業界に入り努力不屈不撓の貢を以て一貫し然も蛟龍は遂に池中のものに非ず畑違への商道に躍進するに教びし心理學や教育學を應用し遂に非凡な才腕を斯界に發揮して文化事業の爲め獻身的の活動に依つて信用の愈々加へられつゝあるを認めねばならぬ。

◎由來氏が居町たる白銀町は十八天狗樣もお住へ遊ばされると云ふ程の物騷な町内で事毎に問題を惹起し一と騷擾を演じた後に非らざれば納まらぬと云ふ激浪が高い空氣の平隱でない誇張して謂はゞ元龜天正時代の戰國化した氣分のある町なのである。

◎過般の區長問題にも是れを遺憾なく暴露したが公平圓滿の美点の所有者たる氏に期せずして衆望は擧町一致して其の榮譽を擔にしたのである、青年實業家たる氏の社會的進路はこれより面目躍如として達成されることであらう。

財界夜話

深刻なる不景氣を殊更に体驗しつゝある石城地方の民衆は痛切に地元銀行の必要を感じて何とか出來ない相談だらうかと寄ると集まると噂の種となつてゐる磐銀が更生への進路は更に發見に苦しむ程で是れはどうしても重役全部の改撰をして手腕力量の人物をして其の整理の衝に當らしめなくては駄目であるわい……株主諸君以如何とする最も策謀しても株數に於て勝味なしとすれば又何等かの法方なしとせんや。

×　×

七十七平支店の活動、地方への貢獻は金融業としての銀行の職能を發揮して居るを感謝しては居るが一方常磐の支店に至つてはいくら平銀の跡始末だからなど云つて整理にばかり努力しないで堅實なる便宜を慾いとは一般の希望である、中村支店長一肌拔いてはくれまいか。

×　×

磐越の方針中野頭取の更生活動によつて目鼻付かりしとは快なる哉。

◎平町に於ける過般の請求町會招集されるまでには裏面での話の種が山盛澤山にある、關内町議は遠藤助役の雲隱れを探出して三つれ行き大いに町會の開會を要求して止まぬ其の應援に齋藤町議を呼出しビールを二十本も飲む程の時間を費したが助役は町長の居場所が判明しないから相談が出來ないとの一天張りで應諾の模様がないので齋藤氏は伏見を發見すべく各所に張番を頼み廻るし一方關内氏は遠藤の逃走を制して居ると云ふ騷ぎ是等兩氏の努力で漸く招集される段取りになつたのださうだ。

◎關内氏は鎧分さ押しは強いし齋藤氏は純理に進むといふた風で議員中では第一の指を屈せらるゝ人物なのである。

◎平の佛教團体である善隣會は欠食兒童の救濟に托鉢の寄捨を求めた金八十五圓餘兒童保護會に寄附したと云ふ宗教家らしい活動をしたが事實平の住職達は所謂時代を解してよく其の天職に忠なるものであることは昔の坊樣とは撰を異にして居つて活氣がある。

夏の家具漆器は……
和久井屋へ
平町一丁目電話四〇五番

町村長ものがたり（卅四）

名助役にして未來の村長たる　高久村 本馬武氏

石城郡高久村役場に本馬武氏なる名助役が居る大正六年十一月收入役に撰ばれて七年を勤め十三年の十一月には助役に推薦され今日に及んで居る。

氏は未だ不惑を出でざるの壯年時代の最も活動期である今日迄の青年期に於て消防に關係すること明治四十三年よりで現在は副組頭として又組頭に擬せられて組員一同の信任頗る厚きものがある。

軍人分會長を八年關も勤め現在大日本武德會福島支部平分會の高久分區長として武道の練磨に思想の善導に貢獻する處か多大である、勇猛淸廉なる男子的氣象を養ふは劍柔道の修養に如くものは無いと氏は常に高唱して現下の惡氣流の渦を捲からせめて居村の青年達ても遠ざからせねばならぬと努力して居るなとは感謝し且つ敬服すべきである。

村治に對する氏の熱誠なる努力と赤心とは村民一般の感激して居る處で未來は必ずや村長の榮譽を荷ふことは明月の淸水に映ずるが如きて明々白々として決して間違ふことは無いのである、是れ氏の如き才識あり人格あり手腕あり頭腦明晰なる持主は村政の完美と村民の福利とを望む者の賛同し擧村一致の推選を見ることであらう。